岡山市の公民館ニュース
れんめんめん

令和３年２月２８日発行
第４号
岡山市教育委員会
生涯学習課公民館振興室
（岡山市北区幸町10-16, 234-6015）
公民館振興室
ホームページ ➡

コロナ下でオンラインも初めて活用
公民館大会を４テーマに分けて開催

地域づくり学習会
子どもを通した地域づくり
実践元に子どもが地域に関わる夢話し合う

【参加者５１名（リモート7名）】

子どもたちが参画して活躍できる学びの場づくりから、地域が元気になるための取組みを考えることをねらいとした「地域づくり」の学習会。

早島町の「早島学協働本部」の地域とつながり未来を拓く早島っ子の育成を目指した取り組み、御南西公民館の御南中学校と協働した「若者★プロジェクト」の活動、そして、朝日塾中等教育学校高等部の生徒さんたちの地域の持続可能性維持を目指したフィールドワークをもとにした取組みの３本の実践報告が行われました。

その報告で聴いた話をもとに、子どもたちが地域に関わることで生まれる夢やその実現のためのアイディアを、事例報告した高等部の生徒も参加して、大人たちと共にグループで話し合いました。

報告された事例から、子どもが地域に関わることが、地域の持続可能性を高めることに貢献することも確かめられました。

1月23日 瀬戸公民館
福田公民館 1月24日

【参加者６１名（リモート6名）】

会場の福田公民館が避難所になった場合を想定し、地元福田学区の皆さんが受付に立って、避難所運営本番さながらに、公民館大会の参加者に検温や氏名等の確認などの受付作業を実施するところから学習会は始まりました。

学習会は防災ボランティアとして活躍されている森田靖さんをコーディネーターに、福田学区の安全と安心をまもる会の岩木護さん、福田小学校PTA会長で防災士のボウズ満恵さん、岡山市地域防災担当課長の田村隆洋さん、福田公民館の高田恵子館長がそれぞれの取組みを報告しました。その中で、避難所運営のためには具体的なマニュアルづくりがカギだということや、福田地域では避難所開設に備えて、学区独自の避難所利用者登録票を全戸に配っていることなども報告されました。また、PTAでの取り組みの経験などから、信頼関係が持てるコミュニケーションづくりを日頃からご近所同士で行っていく大切さも語られました。

その取組みが「共助」に生かされることを地域へ伝えていく役割を公民館が果たすことも求められました。

防災・減災学習会
避難所運営の初動と準備
～福田公民館が避難所になったら～
具体的なマニュアルや日頃の活動での信頼関係づくりがカギ

４面にも学習会の記事があります

公民館の実践紹介⑦

東公民館　地域の宝を学び、伝えるのは中学生

西大寺鉄道の記憶と記録を次世代へ

ESDプロジェクト「ふるさと」

ESD（持続可能な開発のための教育）を推進する拠点として公民館の活動が注目されています。そのESDの視点の一つに「地域の文化財等に関する学び」があります。東公民館のある竜操中学校区は、操山や龍ノ口山、百間川など自然が豊かで、弥生時代の遺跡をはじめ歴史的文化遺産も多い地域です。平成25年度に立ち上げた「ESDプロジェクト『ふるさと』」は、その地域特性を生かして「地域の自然・歴史・文化の伝承」をテーマに活動しています。講座の企画段階で、この活動には地域の将来を担う子どもの関りが欠かせないと竜操中学校と連携して活動を開始しました。生徒有志に「ふるさと特派員」を委嘱し、地域の大人の「ESD推進員」に支えてもらいながら、今年度で8年目となりました。

西大寺鉄道顕彰事業の実施

竜操中学校区には、その昔、西大寺鉄道（軽便）が通っていて、その跡が学区内に今も残っています。当館では、平成21年以降、公民館ボランティアグループ「あかれんがクラブ」と連携して西大寺鉄道関連の講座を実施してきました。この間、まちづくりの一環として何か形に残るものができないかと考えていたところ、岡山市の「岡山歴史のまちしるべ」事業を知り、平成31年3月に公民館の近くにあった大師駅跡（幡多学区の関）にまちしるべを設置しようと事業に応募しました。

その年の夏には、まちしるべ設置の話を知った竜操中学校より、大師駅の駅名看板の設置はどうかとの提案があり、駅名看板の設置も進めていくことになりました。

この取り組みは町内会も応援してくれ、各所との調整を経て、令和2年3月、まちしるべと駅名看板が設置されました。看板には中学校の美術部制作のイメージ画も付き、設置場所にコンクリートが敷かれ、まるでホームのようになっています。

ふるさとウォーク

新型コロナウイルスの影響もあり、今年度のESDプロジェクト「ふるさと」は10月からの3か月間で、11月のふるさとウォークだけの活動となりました。14名の生徒が集まり、企画会ではESD推進員の助言を受けながらウォークのコースや役割分担を決め、その後コースの下見も行いました。大師駅跡とその駅名の由来となった操山のゴロゴロ大師を巡るコースです。各ポイントの説明役は、公民館やESD推進員が渡した資料や下見の時に地元の方からお聞きした話等をもとに準備します。

また、募集チラシとスタンプラリーの台紙の作成、当日の運営も生徒が行います。

公民館ではウォークへの関心を高めようと、館内で「懐かしの西大寺鉄道展」の開催や、西大寺鉄道をテーマにした高齢者向け講座を計画しました。地元紙に写真展の様子が掲載されたこともあり、幼児から高齢者までスタッフも含めて51名と今までで最大の人数が集まりました。

当日は、ふるさと特派員OBが4人応援にかけつけ、運営のサポートをしてくれました。こうしたつながりも講座の魅力の一つです。参加者からは、「みんなしっかりしていて本当にすごいなと思った」「（説明の時）一生懸命さが伝わってきた」「地区の遺産を知るコースで勉強になった」などの感想をいただいています。

地域の宝を伝える若者たちに期待

12月、ふるさと特派員の活動発表を高齢者対象講座「福寿大学」の中で行いました。講座生の中には生徒たちが「地域の自然・歴史・文化の伝承」をテーマに長年活動していることを知らない方も多く、中学生たちが地域で活躍していることを知ってもらう機会となりました。

発表後、生徒たちと活動の振り返りを行いました。「地域の魅力が少しわかったので、今後も活動したい」「歴史の楽しさ、奥深さを知ったのでもっと調べてまた現地を訪問したい」という感想や「ウォークができて本当によかった。3年間お世話になりました。来年は応援に来ます！」と言ってくれた3年生もいました。ふるさとへの関心を高め、伝える活動がつながっていると実感し、そして生徒の成長も感じることができた嬉しい瞬間でした。

今回の取り組みの中で、多くの方から西大寺鉄道のエピソードを聞くことができました。それはまちの記憶でもあります。その記憶を地域の宝として記録し、どう伝えていくか。まちづくりへの活用を考えると、やはり若い世代がその役割を担っていくことが地域にとってよいことだと思います。もうすぐふるさと特派員のOBたちが社会人となり地域に帰って来ます。彼らの手を借りながら、中学生たちの活動を支援できたらと考えています。

公民館の実践紹介⑧

万富公民館

互いに知り合い、理解・尊重しながら 地域で支え合う子育てを

地域の状況

瀬戸町は岡山市の中で唯一、中学校区に公民館が２館（瀬戸公民館と万富公民館）ある地域です。

万富公民館が立地する千種学区は、人口が約4,000人で、１５歳以下の人口は約420人であるのに対し、瀬戸公民館が立地する江西学区の人口は、約11,100人、１５歳以下の人口は約1,700人と１５歳以下の人口は約４倍です。瀬戸町内には大学が１校、高校が３校、中学校が１校、小学校が２校、保育園が２園、認定子ども園が２園と児童館が１館ありますが、そのうち千種学区には、千種小学校と千種認定子ども園の１校、１園のみしかありません。

千種学区には、大きなスーパーや子育て中の方が気軽に立ち寄れる施設もなく、合併特例区終了後の平成２４年度から保健センターも東区保健センターに統合され、身近に子育ての悩みを気軽に相談できる場所がありませんでした。その様な状況下、万富公民館では次の様な子育てに対する講座を実施しています。

万富子ども広場

「万富子ども広場」は、就園前の子どもとその保護者を対象に、親と子がともに学び合い、ともに成長することのできる場として、平成２０年度から始まった講座で、年２０回程度実施しています。

活動内容は、元幼稚園長の講師と地域ボランティアと職員で年度末に打ち合わせを行い、次年度の計画を立てます。「七夕飾りづくり」や「クリスマス飾りづくり」、「おひなさまづくり」など季節に合わせたイベントや、親子で楽しめるお楽しみ会の他、子育ての専門家を外部からお招きし、子育てサロンを開催し保護者への学習機会を提供しています。その他講座へは、万富公民館のクラブ講座や、地域ボランティア、保健センターも関わってくださり、「万富子ども広場」の応援団になってくれています。

「万富子ども広場」には、千種学区だけでなく、江西学区や赤磐市からの参加もあります。保護者同士の交流も兼ねて、「ママ友をつくろう」をテーマに、講師や職員も混ざって話し合いを行い、子育ての悩みや問題を共有する機会も設けています。

課題は、少子化による参加者の減少と、地域に認定子ども園が出来たことによる参加者の低年齢化で、発足当初の活発な交流が減り、それまで多かった４、５歳児の参加も減ったことで今までの様な親子での活動が難しくなったことです。令和３年度からは、０～３歳児の遊びを充実させ、保護者には子育てに対する学びの機会を更に増やし、参加者同士自由に話し合いができ、悩みを相談、共有できる場へと内容を進化させていきたいと考えています。

発達障害座談会「ありんこクラブ」

「ありんこクラブ」は、発達障害について自由に語ったり学び合ったりできる場として、平成３１年度から始まりました。参加者は、発達障害のある方やご家族に発達障害のある方、発達障害について知りたい方や支援したい方で、毎回５人から１０人程度の参加があります。子育ての悩みや喜びを共有したり、さまざまな情報交換をしたりします。参加者の中には、お互いにLINEを交換し、子どもの進学について相談し合う様子が見られるなど、公民館が出会いとつながりの場になっています。また、最近は講師を招いての学習にも力を入れていて、公民館と「ありんこクラブ」の参加者とで講座を企画・実施しています。

１２月には、「特性に合わせたお片付け～みんなで学ぼう発達障害～」という講座を実施し、地域内外から16人の参加がありました。「ありんこクラブ」の参加者同士が知り合い、つながり、対話を重ねることで、新たな学習の場を生み出しています。

地域の中で安心して子育てができるように（まとめ）

子育てを取り巻く地域の課題は、住民同士のつながりの希薄化や核家族化による“孤育て”の問題や、外国人労働者が増えたこ　万富公民館では、今後も子育て中の保護者が子どもと一緒に気軽に参加でき、子育ての悩みを相談・共有したり、情報交換のできる場の提供や、他人事を自分事として捉え、互いを理解、尊重し、支えあうことのできる、温かい地域となるように学習機会の提供を行っていきます。

「若者」×「公民館」プロジェクトは今

若者の地域への参画を進めるために今年度スタートした「若者」×「公民館」プロジェクト。すでに４つのプロジェクトが実施されています。

ノートルダム清心女子大学の学生が企画した「はたらくカフェ」が北公民館で実施され、瀬戸南高校の学習成果の発表会が瀬戸公民館で実施されました。

高校生が企画した「A0107（え～おとな）グランプリ」には公民館から候補が推薦され、そのうち３人が10人の最終選考の候補に残っています。NPO法人チーム響きさんが企画した子どもの夢体験は、西大寺公民館で3月14日にドリームフェスティバルとして実施されることになっています。（右のチラシ）　次年度もこのプロジェクト募集を継続する予定です。

若者の地域参画学習会　若者と地域をつなぐ公民館
SNSを活用したPRで公民館・地域と関わる仕組みづくり

【６２名（リモート7名）】

東京から岡山市北区御津に移住しカフェを経営しながら地域の活性化のために様々な活動をされている中里さんや、就実大学の中塚准教授、ノートルダム清心女子大学学生の角名さん、東山公民館の藤山さんの４名が取組みを報告して様々な立場から話し合いました。参加者はグループに分かれて、発表に対しての意見や質問と「若者と地域をつなぐ公民館　それはどのように在るべきか」について意見を出し合い、最後に全体で共有しました。

その中で、１０年後のめざす姿で掲げた子どもから青年へのプロセスで公民館・地域と関わりつながる仕組みの必要性や、若者へ公民館の存在や活動を積極的に伝えるために、SNSなどのつながるツールを活用してPRすることの必要性が共有されました。そのためにも、「公民館はこういうもの」という枠組みにとらわれないで、もっと自由な公民館像を求めて、いろんな人や団体をつなぎ、柔軟に対応していくことが大切だと確認されました。

1月30日
操山公民館

操山公民館
1月31日

【５６名（リモート10名）】

地域の支え合いのグループ「旭竜助け合い隊」と、ももぞの学園や法人報恩積善会という社会福祉法人から、みんな食堂などの地域貢献活動等の事例発表を聴きました。助言者のコメントの後、6グループに分かれて「80歳以上の高齢夫婦の困ったこと」をテーマに、自分だったら何ができるか、自分一人では無理だけど誰かといっしょだったらできることなどについてアイデアを出し合いました。そして、一番盛り上がったアイデアを一つ発表し、全体で共有しました。社会福祉法人のノウハウや人材を活かして、公民館や地域の活動へとつなげて、支え合いの仕組みつくりや居場所を広げること。「助けてほしい」が言える地域づくりが必要なことが共有されました。地域から孤立している人を地域とつなぐ、その役割を担う人を育てていくことが、支え合いの仕組みをつくっていく時に重要になってくること。「できること」を応援していくことで「助け合い」「支え合う」関係を作っていくことの大切さも確認されました。

地域福祉・共生学習会　いつまでも住み慣れた地域で暮らすために
～支え合いの仕組みを考える～
社会福祉法人の力を孤立している人や地域とつなぎ、できることを応援